

事業報告書

事務局経営戦略課

1 法人の管理運営事業

定時評議員会を1回（6月24日）、定例理事会を2回（6月7日・3月17日）のほか、臨時理事会を4回（4月1日・6月28日・8月17日・2月7日）、評議員選定委員会を1回（3月2日）開催した。

指定管理業務の円滑な運営のため、宮崎市、宮崎市教育委員会の各担当部署並びに各施設との綿密な連絡調整を行うと共に、指定管理期間が満了となった宮崎科学技術館、大淀川学習館、宮崎市歴史資料館については、新たな指定管理期間（令和5年度～令和9年度の5年間）における指定管理者として市から指定を受けた。

また、公益法人として、定款及び規則に定めた人事・財務などの所掌事務を適切に行った。

2 研修事業

内部研修・・・職員の資質向上のため、年間研修計画に基づき、研修を実施した。

階層別研修、特別研修（広報研修、コミュニケーション研修）などを実施した。

研修回数 15回

職員参加者数 延べ 213人

外部研修・・・協会各施設の運営や技術習得のため、宮崎県博物館等協議会や全国公立文化施設協会主催の研修会に参加すると共に、防火管理者講習や、公益法人会計について学ぶ会計セミナー、今後対応が求められているインボイス制度セミナー等に参加した。

3 健康管理事業

職員の健康管理のため、職員から産業医への健康相談ができるような体制を整え、長時間労働者への健康相談の勧奨のほか、各施設で合計6回の健康相談を計画し、延べ4人の利用があった。

4 文化講演会（公益財団法人宮崎文化振興協会設立35周年記念事業）

協会の設立35周年を記念して、文化及び芸術の振興を図り、文化の香り豊かなまちづくりに寄与することを目的に文化講演会を開催した。

開催日 令和5年2月26日（日）

会場 ニューウェルシティ宮崎（宮崎科学技術館隣）

講師 徳川宗家19代当主 徳川 家広 氏

テーマ 「徳川宗家から見た日本の歴史と文化－黒潮連合が決めた関ヶ原の戦い－」

参加者数 約400人

5 その他

定款に定める目的を達成するため、協会横断的な以下の事業を行った。

(1) 処遇の改善

職員の待遇改善を図るため、契約職員と無期転換職員の給料表の改正、及び非常勤職員と臨時職員の給料・賃金の改正を行った。併せて夏季休暇の取得開始時期を7月から6月に変更し取得期間を延ばし、休暇を取得しやすくなるよう改善を図った（令和5年4月1日施行）。

また、育児介護休業法の改正により、産後パパ育休（出生時育児休業）が新たに創設されたこと等に伴い、育児休業等に関する規則及び介護休業等に関する規則の改定を行った（令和4年12月1日施行）。

(2) 協会機関誌「まなぶんか」の発行

科学・自然・歴史・文化に関するタイムリーな話題を随時提供しながら、季節ごとのイベントの紹介や、イベントの背景や見どころなどを詳しく紹介する協会機関誌を年4回発行し、宮崎市、県内の教育委員会・小学校・中学校・各支援学校・博物館等施設、1市2町（宮崎市・国富町・綾町）の幼稚園・保育所等、宮崎銀行各支店、小児科医院、宮崎科学技術館「友の会」会員、各施設の入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、季刊で各6,000部（年4回）

(3) 公益財団法人宮崎文化振興協会モニターによるモニタリング

来館者に限らず、広く地域住民のご意見をお伺いし、次の事業展開や施設管理に反映させるため、1市2町の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会の施設運営への意見をいただいた。

なお、意見交換会を11月と3月に2回実施し、各種事業や各施設の改善点等を協議した。

意見交換会 2回 モニター人数 19人

(4) 子どものための音楽会の開催

様々なジャンルの音楽の生演奏や音色に触れ、乳幼児の情操を育むため、演奏会を、複数の施設を管理運営する利点を生かし、年間を通して各施設において開催した。

実施回数 4回 参加者数 延べ 329人

(5) 1日子ども館長の実施

子どもたちが「1日子ども館長」として「職」を体験することで、「働く」という意識や当協会が広く啓発する科学・自然・歴史・文化に興味関心を持つとともに、将来の職業意識を醸成するため、当協会が管理運営する各施設において、各分野の体験活動を実施した。

実施回数 4回 参加者数 20人

(6) 授業づくりサポート事業

学校教育支援の一環として、1市2町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくり全般のサポートを行った。また、各自の課題に応じて適切なサポートを行うことで、各学校における理科教育の向上を図った。

出前講座等の実施回数 5回 参加者数 375人

(7) 学術・科学技術・文化・芸術振興のための研究事業の実施

学術及び科学技術、文化等の普及・啓発・振興を図るとともに、職員の職務能力の向上のため、管理運営する施設の発展や業務達成に貢献できると認められる研究を実施し、研究費用の助成を行った。

また、令和5年2月17日（金）に研究事業成果発表会を開催し、応募研究の中から優秀研究を選出し、研究事業表彰式を実施した。

研究本数 8本

研究者数 延べ13人

(8) ぶんしんきょうチャンネルの開設

協会内の各施設のホームページ上に「ぶんしんきょうチャンネル」を新設し、動画コンテンツを定期的に配信することで、家にいながら各施設の魅力に触れることができるようにし、来館意欲を高めた（令和4年度末時点で24本の動画コンテンツを配信）。

宮崎科学技術館

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和4年度においても展示室、プラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	298日	プラネタリウム投映日数	284日
入館者数	132,933人	利用者数	54,286人
1日平均入場者数	446人	1日平均利用者数	191人

※9/18・19は台風により臨時休館

※12月プラネタリウム機械入れ替えのためメンテナンス含み9日間投映中止

※プラネタリウムは換気のため、投映回数を減らして運営

※各種イベントも一部、入場制限しての開催等を行った。

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	70,442人（53.0%）
大人	62,491人（47.0%）
合計	132,933人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	117,263人（88.2%）
団体	15,670人（11.8%）
合計	132,933人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内（宮崎市・国富町・綾町）

幼稚園・保育所等	4,767人（47.9%）
小学校	4,181人（42.0%）
中学校	207人（2.1%）
高等学校	0人（0.0%）
一般	273人（2.7%）
児童クラブ	94人（1.0%）
福祉施設	151人（1.5%）
その他（NPO法人等）	277人（2.8%）
合計	9,950人

・広域圏外（宮崎県内上記以外）

幼稚園・保育所等	637人（11.5%）
小学校	3,873人（70.3%）

中学校	481 人 (8.7%)
一般	20 人 (0.4%)
児童クラブ	205 人 (3.7%)
福祉施設	105 人 (1.9%)
その他	191 人 (3.5%)
合 計	5,512 人

④ 県外団体利用内訳

一般	82 人 (39.4%)
児童クラブ	79 人 (38.0%)
その他	47 人 (22.6%)
合 計	208 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	4	162	77.9
四国	0	0	0
中国	1	46	22.1
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	0	0	0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
海外	0	0	0
合計	5	208	100.0

⑥ 九州・沖縄内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	47	29.0
佐賀	0	0	0
長崎	1	36	22.2
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	2	79	48.8
沖縄	0	0	0
合計	4	162	100.0

2 常設展示事業

世界に2基しかないアポロ11号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物の他、人気の4D-VR（2人乗り連動チェア）やVRゴーグル8台を設置し、先端科学技術を集約した展示物は約120点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を高めさせることができた。

本年度は、映像技術の最先端である3Dホログラムディスプレイや3D回転アームディスプレイを導入し、来館者の科学技術に関する興味や関心を高めるとともに、集客力の向上に努めた。

また、インバウンド等による外国人入館者増を見込んで、展示物の多言語化を目指し、紙媒体での展示解説文だけでなく、来館者自身が所持しているスマートフォンやタブレット端末に展示案内の表示や音声案内ができるモバイルガイドシステムを導入した。また、日本語による解説文表示や音声案内により、外国人だけでなく視覚、聴覚に障がいのある方々にも利用しやすい環境を構築できた。

3 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学する心」を育てるためのサイエンス教室や、高齢者と一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、宮崎大学教育学部・農学部・工学部や宮崎航空大学校教官、JSC（教育ボランティア）、宮崎大学の自然科学体験学習の学生と共に実施した。

①	チャレンジサイエンス	実施回数	30回	参加者数	延べ	5,130人
②	ダ・ヴィンチ工房	実施回数	6回	参加者数	延べ	144人
③	生きがい科学館	実施回数	8回	参加者数	延べ	71人
④	エンジョイサイエンスショー	実施回数	10回	参加者数	延べ	861人
(工学部 6/12 96人 農学部 7/17 62人 8/28 57人 教育学部 10/16 72人 12/11 65人)						
⑤	宮崎少年少女発明クラブ	実施回数	19回	参加者数	延べ	780人
⑥	どろだんご教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	105人
⑦	科学技術週間工作教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	242人
⑧	自由研究サポート教室	実施回数	3回	参加者数	延べ	3人
⑨	なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数	16回	参加人数	延べ	1,251人
⑩	コスモランド教室	実施回数	11回	参加人数	延べ	1,798人
⑪	サイエンス親子学習教室	実施回数	2回	参加人数	延べ	64人

(2) プラネタリウム親子学習教室

学校での天文学習の補充と深化を目的に、小学4年生及び6年生、中学3年生向けの学習プログラムを行った。事後の感想も好評であった。

実施回数	小学4年生対象	2回	参加者数	延べ	395人
	小学6年生対象	1回	参加者数	延べ	134人
	中学3年生対象	1回	参加者数	延べ	24人

(3) ドローンサッカー大会

ドローンの操作技術を学び、その魅力を体感するため、ドローンサッカー大会を2日間実施した。ドローンサッカーとは、球状のプラスチックフレームに覆われた専用ドローンボールを使用し、3対3で戦う最新戦略型スポーツである。子どもから高齢者まで、年齢や性別、障がいのあるなしを問わず、同じフィールドで楽しめるバリアフリースポーツであり、多くの来館者が体験された。

令和4年8月13日(土) 参加者数 116人 8月14日(日) 参加者数 110人

4 プラネタリウム事業

九州最大級である直径27mのプラネタリウムに3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。令和4年9月29日(木)～9月30日(金)の期間は音響機材更新のため、12月13日(火)～12月21日(水)の期間はプロジェクター更新のため、投映中止となった。

入場者数	延べ	50,621人
投映回数		846回

(1) 一般番組

- ・永久投映権をもっている番組
「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」
「今夜銀河の片隅で」「DARK」「宇宙への旅」
「宇宙のエネルギー」「ピーターパン」「太陽」
- ・令和4年度から投映した新番組
「ムーミン谷のオーロラ」「星の降る夜に」「カラフル太陽ツアー」
「ジュラシックヒーローズ」「オーロラ 夜空に舞う光のベール」

(2) 学習番組

- 「ピーターパンとほしのくにへいこう」(幼児向け)
- 「スタジオ444」(小学4年生向け)「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)
- 「この空に願いを込めて…」(中学生向け)

(3) 自主制作番組

- 「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心を持ってもらうよう努めた。

実施回数 10回 参加者数 延べ 662人

(5) おはよう太陽の観望会

春分の日近くに、午前中に見える日中の太陽を望遠鏡で観察する計画を行ったが、悪天候のため、中止となった。

実施回数 1回 参加者数 延べ 0人
※悪天候のため、中止

(6) スターウォッチング教室

宮崎市、国富町、綾町の団体を対象に、応募団体の希望の会場に出向き、天体の基礎的な学習と天体観察を行った。望遠鏡などを用いた体験から、天文や宇宙に興味・関心をもっていただくように努めた。

実施回数 5回 参加者数 延べ 277人

(7) スターウォッチング in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、市街地（アミュプラザみやざき屋上、宮崎県総合文化公園）での観望会を開催した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 200人

(8) キッズアワー

幼児向けのプラネタリウムとして、通常暗いプラネタリウムを明るくし、子どもが自由に声を出したり動いたりして楽しめる内容の星や星座の話と、幼児向けの番組の投映を行った。

実施回数 12回 参加者数 延べ 1,813人

(9) 特別投映

神武大祭に合わせて、特別投映を行った。当館の自主制作番組「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」を投映し、併せて天文と日向神話の親和性について職員が準備した映像等で解説を行った。

実施回数 5回 参加者数 延べ 145人

(10) 皆既月食観察会

宇宙・天文への興味関心の向上、天文現象を身近に感じてもらうことを目的として、宮崎中央公園（文化の森）で「皆既月食」の観察会を11月8日（火）に開催した。

実施回数 1回 参加者数 200人

5 文化振興事業

(1) 星空と音楽の夕べ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家に活動の場を提供するとともに、市民文化活動高場に資するため、プラネタリウムホールで7月と9月に開催した。音楽の生演奏とCD音楽の解説という2部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 314人

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽の夕べ」より気軽に楽しんでもいただくため、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを5月と12月に実施し、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の人に楽しんでもいただいた。

実施回数 2回 参加者数 延べ 283人

(3) 星空さんぽ in プラネタリウム

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすくするために、星空の生解説を含め、魅力的なテーマを設定した投映を行った。職員でテーマに合わせた映像や参加型の企画を準備し、来館者が、より星空に親しめる内容にした。

実施回数 5回 参加者数 延べ 650人

(4) えほんの読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用と子どもたちの情操教育を目的として、幼児から一般を対象に、絵本の読み聞かせを奇数月に実施した。ドームシアターを利用して、絵本を大きく投映する演出をすることで、プラネタリウムホールを幅広く体感してもらうように努めた。

実施回数 6回 参加者数 延べ 720人

6 イベント事業

(1) 主催事業

①「ドローン操作体験教室」(新規事業)

ドローンを初めて操作する子どもたち等に向けて、操作体験教室を開催し、ドローンが左右上下等に飛行できる科学的原理を理解するとともに、ドローンを楽しく飛行させる機会と日常生活での活用状況を学べる機会を提供した。

開催期日 令和4年7月24日(日)・8月21日(日)

参加者数 108人

②「オーロラ写真展」(新規事業)

オーロラ写真家・中垣哲也氏に依頼し、自身が撮影した色鮮やかな写真パネル10点を展示、VRゴーグルを使用したオーロラ体験も実施した。

また期間中の7月30日(土)に、オーロラスペシャルとして、星空さんぽ in プラネタリウムの中で、中垣氏が実際に撮影したオーロラの写真や撮影時のエピソードを交えてトークショーを行った。

開催期日 令和4年7月23日(土)～8月24日(水)

開催場所 1階展示室内

参加者数 21,455人

③トイレ美術館

館内トイレの壁面を活用して、職員が撮影した県内の空や天体写真を展示し、環境美化と癒しの空間づくりを行った。

開催期日 令和4年4月1日(金)～令和5年3月31日(金)

開催場所 館内トイレ内

④こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育所等を招き、正面玄関前でこいのぼり掲揚式を行った。その後、プラネタリウム投映を観覧し、園児に用意したこいのぼりをプレゼントした。

開催期日 令和4年4月8日(金)

参加者数 計 20人

⑤「科学と遊ぼう!こどもの日」

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、有料開館としたが、エンジョイサイエンスショーの実施やこどもの日にちなみ、来館した子どもたちに自身の誕生日の星座エンピツをプレゼントした。

開催期日 令和4年5月5日(木・祝)

入場者数 延べ 1,172人

⑥自然と暮らしに優しいエコフェア

生命や防災対策等、地球環境の大切さに気付く機会を提供するために、みやざきエコの会、み

やざきキッズサイエンスラボ、県環境情報センター及び当館職員による牛乳パック万華鏡、ソーラーバットを作ろう、身の回りのPHをはかろう、エコバッグに絵を描こう、段ボールを使っておもちゃを作ろう等のワークショップを実施した。参加した子どもたちが興味をもって取り組んでいた。

開催期日 令和4年6月4日（土）・5日（日）

入場者数 延べ 188人

⑦第63回科学技術映像祭入選作品上映会

日本科学技術振興財団等の主催による科学技術映像祭の入選4作品を、1階展示室で上映した。質の高い映像から科学技術への関心が喚起され、その普及について啓発することができた。

開催期日 令和4年7月23日（土）～8月24日（水）

入場者数 延べ 21,455人

⑧スペシャルサイエンスショー

子どもたちの科学への興味・関心を育むことを目的に、インストラクターが企画し、大気圧や摩擦をテーマにしたサイエンスショーを開催した。人気のショーであり、本年度は4回実施した。

開催期日 ①令和4年6月19日（日） ②令和4年8月11日（木・祝）

③令和5年1月9日（月・祝） ④令和5年2月23日（木・祝）

入場者数 ①135人 ②138人 ③157人 ④242人 計672人

⑨南極クラス

南極で実際に生活した越冬隊員による講話を通して、南極の生活や自然環境についての関心を高め、地球環境を学ぶ機会を設けると共に、越冬隊員が実際に南極で着用していた防寒着や、実際の生活の様子をVTRの視聴を通して、疑似体験的に学べるようにした。

開催期日 令和4年7月3日（日）

入場者数 63人

⑩青少年のための科学の祭典2022宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる12の実験ブースの出展をし、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学及び科学技術に対する興味関心を高める活動を実施した。

開催期日 令和4年8月6日（土） 892人 7日（日） 1,333人

⑪教員のための博物館の日

教職員や大学の教育学部生、博物館関係者を対象に博学連携を目的とし、県立西都原考古博物館、大淀川学習館、生目の杜遊古館と共同し、ワークショップを宮崎科学技術館で行った。

開催期日 令和4年8月4日（木）

参加者数 17名

⑫ J S C フェスティバル

敬老の日までの3日間、活動パネル展示やJ S Cによるシャボン玉の実験ショーや、ロケットの工作教室を実施した。

開催期日 令和4年9月17日(土)～19日(月・祝)

参加者数 計 219人

※9月18日(日)、19日(月・祝)は台風接近に伴い臨時休館

⑬ 科学技術館シルバーdays

敬老の日にちなみ、高齢者の無料開放を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の高齢者に対する影響を踏まえ、有料としながらもプレゼント(感謝メッセージ付コスモ博士せんべい)を準備した。

開催期日 令和4年9月19日(月・祝)

※ 台風接近に伴い臨時休館

⑭ 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの歌やクラリネット、ピアノの生演奏により多目的ホールで開催した。需要が高く、募集定員を上回る申込があった。

開催期日 令和4年12月15日(木)

内 容 子どもの知っている曲の歌や演奏

参加者数 計 41人(19組)

⑮ 名月展

中秋の名月に合わせて、月の姿の魅力や、最新の観測で解明しつつある月の話題について、写真やパネルを展示した。すでに実施した企画展等のパネルや、映像を活用し、月の話題に特化した企画展を実施した。

開催期日 令和4年9月9日(金)～10月10日(月・祝)

内 容 月の秘密を解き明かすパネル展

参加者数 計 6,562人

⑯ ナイトミュージアム

夜間を効果的に使った演出とプログラムを準備し、科学現象や科学技術に対する興味・関心を高める機会とするために、館内を夜間開放し、体験型のイベントを実施した。テーマは～ダ・ヴィンチからの挑戦状～。レオナルド・ダ・ヴィンチが、宮崎科学技術館に残した5つの謎を解明し、ゴールを目指すという設定の体験型のイベント。体験には、科学の現象や館内の展示物、プラネタリウムを活用するほか、屋外でのプロジェクションマッピングを行った。

開催期日 令和4年12月24日(土)・25日(日)

入場者数 延べ 295人

⑰ 1 日子ども館長（事務局経営戦略課事業）

科学及び科学技術に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和4年10月30日（日） 10:00～15:00

参加者数 5人（4年生1人、5年生2人、6年生2人）

⑱ 令和4年度宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした84の絵画作品を展示した。小・中学生から203点の応募があり、内21名の入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日 令和4年11月19日（土）～12月11日（日）

表彰式 令和4年12月11日（日）

入場者数 延べ 2,274人

⑲ 常設展示「3D－ホログラムディスプレイ及び3D回転アームディスプレイ」（新規事業）

先端技術である映像科学を紹介する展示物を各階及び旧ベジタブルファクトリーコーナーに設置した。空中に浮かぶ映像を空間で操作体験でき、先端科学技術に興味・関心を持つ機会を設けた。

開催期日 令和4年7月23日（土）～

展示場所 3D回転アームディスプレイ・・・1階 サテライトシアター
2階 映像科学の最先端コーナー
3階 プラネタリウム入場受付
3D－ホログラムディスプレイ・・・2階 映像科学の最先端コーナー

⑳ アウトリーチ事業

館外で実験教室や授業支援を行い、教育施設の支援や、イベントや市街地活性化の取組を支援した。本年度は新たにアミュプラザ・イベント広場でのアウトリーチ事業を展開した。

○ちょこっと工作（アウトリーチ）

※ 令和4年7月31日（日）、綾町内の公民館で予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

○若草通り「街市」

開催期日 令和4年10月29日（土）、11月26日（土）

令和5年 3月25日（土）

内 容 「キラキラ星座カード作り」

参加者数 10月 300人、11月 60人、3月 150人 総計 510人

○アミュプラザ・イベント広場 5月

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

○未来みやざき子育て応援フェスティバル2022

開催期日 令和4年11月12日(土)・13日(日) 午前10時～午後4時
場 所 宮交シティ3階 紫陽花ホール
内 容 「タネの模型作成」
参加者数 計 275人

○ガス展

開催期日 令和4年11月18日(金)～20日(日) 午前10時～午後4時
場 所 宮崎中央公園メインモール
内 容 「ブンブンごま」・「ギーギーぜみ」
参加者数 計 579人

②①インターンシップ、職場体験、学芸員資格取得実習

中学生の職場体験学習及びインターンシップや学芸員資格取得実習の受入れをし、青少年の健全育成に貢献するとともに、当館の運営や事業、業務に理解をしていただく機会とした。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度に引き続き、中学校が中止。都城工業高等専門学校6名5日間、県立宮崎工業高等学校3名3日間、県立妻高等学校3名3日間を受け入れ、キャリア教育、サイエンス事業補助、プラネタリウム視聴等の体験を実施した。

また、学芸員資格取得実習のため、九州保健福祉大学1名、八洲学園大学1名、九州産業大学1名、都留文科大学1名を8月4日(木)～15日(月)の期間中、それぞれ5日間～10日間受け入れた。

参加者数 延べ 16人

②②宮崎市教育委員会教職員初任者研修

宮崎市に勤務する小・中学校の教職員初任者に対して、教育施設を活用した授業づくりについての研修を行い、実践的指導力を向上させる機会とした。

開催期日 令和4年11月25日(金)・29日(火)
参加者数 37人

②③宮崎大学理科教育基礎研究フィールドワーク授業

学校外の関係機関と連携した理科学習を探ることを目的に、地域の科学館におけるフィールドワークを行い、施設の概要及び管理運営、展示物解説、プラネタリウム視聴を行った。

開催期日 令和4年7月3日(日)

②④科学技術週間工作教室

科学技術週間に合わせて、工作教室を実施した。スカイスクリューを作成し、多くの親子が参加し、作り上げたスカイスクリューを楽しそうに飛ばしていた。

開催期日 令和4年4月23日(土)・24日(日)
参加者数 計 242人

②⑤授業づくりサポート事業（事務局経営戦略課事業）

学習学校教育支援の一環として、宮崎市・国富町・綾町の小学校理科担当教諭に対し、理科の授業づくり全般のサポートを行った。また、各自の課題に応じて適切なサポートを行うことで、各学校における理科教育の向上を図った。

開催期日 令和4年12月21日（水）
開催場所 宮崎市立江平小学校 体育館
参加者数 108人

②⑥企画展「あっ！と驚く トリックプリント展」

印刷技術の最先端を駆使した10点のパネル展示を、春休み期間中の企画展の一つとして行った。展示された作品をスマホやカメラでフラッシュ撮影すると画像が変わる等、来館者である子どもたちはもとより、大人も楽しみながら、仮想世界やトリック疑似体験を味わっていた。多く機会とした。

開催期日 令和5年3月25日（土）～4月9日（日）
開催場所 パソコン研修室
参加者数 3,507人（3月末まで）

②⑦35周年記念事業（新規事業）

I）企画展「ドローンサッカー操縦体験イベント」

夏休み期間中に開催する「ドローンサッカー大会」のプレイベントとして、ドローンサッカーのデモンストレーションショーの開催や実際にドローンサッカーの操縦体験会を実施した。

開催期日 令和4年4月2日（土）・3日（日）
開催場所 楽しい実験室前
参加者数 354人

II）「プログラミング体験教室」

学習指導要領の改訂に伴い、令和2年度から小学校で始まったプログラミング教育に関して、基礎から学ぶ機会を学校現場以外でも子どもたちに提供するため、初めてプログラミングに接する子どもたちに、タブレットを使った簡単な操作で、プログラミング通りにドローンが動く様子を体験でき、論理的思考を学習できる体験教室を行った。今回は、3日間連続受講によるレベルアップカリキュラムを組んだ教室と1日受講の基礎カリキュラムを組んだ教室の2種類を実施した。

開催期日 令和4年7月16日（土）・17日（日）・18日（月・祝）
対象者 小学3年生～中学生
参加者数 108人

Ⅲ) 「かず先生のサイエンスショー」

九州で活躍されている九州サイエンスラボの石橋一樹氏を講師に迎えて、大気圧や気流をテーマにしたサイエンスショーを行った。子どもたちはもとより、大人も楽しみながら科学に親しみ、学ぶことのできる機会となった。

開催期日 令和4年7月31日(日) 参加者数 215人
開催場所 多目的ホール

Ⅳ) 企画展「サイエンスお化け屋敷」

夏休み期間中の企画展の一つとして、立体視の仕組や様々な科学的な仕掛けを駆使したサイエンスお化け屋敷を設営し、子どもから大人まで楽しんでいただいた。また、SNS映えする記念撮影スポットを設け、来館記念写真を撮る機会も提供した。

開催期日 令和4年7月23日(土)～8月24日(水)
開催場所 パソコン研修室
参加者数 13,554人

Ⅴ) 企画展「ドローンサッカー大会」

夏休み期間中に、小型のドローンボール「SKYKICK」を使用した「ドローンサッカー大会」を開催した。4月に開催した操縦体験イベントの本大会に当たり、3人一チームで総当たり戦を行い、優勝チームには賞品「小型ドローン」を贈呈した。

開催期日 令和4年8月13日(土)・14日(日)
開催場所 楽しい実験室前
参加者数 226人

Ⅵ) ソラマルシェ

“そら”をテーマに宮崎県内で活躍中のハンドメイド雑貨、フードなど約12店舗が集うマルシェ企画を実施した。また、当日は同時開催の「名月展」ともコラボレーションし、“空”に関連するプチサイエンスショーやプラネタリウム投映、展示物解説、天体観望会などを実施した。

開催期日 令和4年10月8日(土)・9日(日)
開催場所 玄関前広場、駐車場
参加者数 5,727人

Ⅶ) スターフェスティバル

宇宙開発の応用に、日本の伝統的文化である「折り紙」の技術が使われていることから、子どもから大人まで人気のある「折り紙」と「宇宙」の関係をテーマとし、体験型展示として折り紙アプリの展示を行った。また、関連するイベントとして講演会を実施した。

開催期日 令和4年10月22日(土)～11月20日(日)
開催場所 1階展示室内及びパソコン研修室
参加者数 20,813人

Ⅷ) 35周年記念事業講演会「おりがみと宇宙、そしてはやぶさ2」

企画展「スターフェスティバル」に合わせ、「おりがみと宇宙、そしてはやぶさ2」をテーマに講演会を開催した。講師は JAXA はやぶさ2 拡張ミッションチーム チーム長の津田雄一氏と本県出身で探査機運用リーダーの三柁裕也氏を招聘し、宇宙船 IKAROS からははやぶさ2までの歴史や道のりなどを、体験や裏話なども交えながらご講演いただいた。

開催期日	令和4年10月30日(日)
開催場所	メイン会場 プラネタリウムホール サテライト会場 みんなの工作室・たのしい実験室
参加者数	メイン会場 183人 サテライト会場 45人

Ⅸ) 月面探査ロボット SORA-Q プロダクトモデル展示

JAXA とタカラトミーなどが共同で開発した月面探査ロボット「SORA-Q」の展示を期間限定で行った。また、月探査に関連する大型グラフィックや月球儀などの展示も行った。

開催期日	令和5年1月5日(木)～1月21日(土)
開催場所	1階展示室内
参加者数	4,568人

㊸入館料無料期間

子どもの体験学習の機会を確保すると共に、子育て世代を応援し、子どもの成長を支える環境づくりを推進することを目的に、令和4年9月から12月の期間、本館の小人(4歳から中学生)の利用料金(310円)を無料化する取組を行った。

(2) 共催事業 () は主催者名

①航空教室 (航空大学校)	実施日 令和4年7月30日(土) 参加者数 18名 令和5年2月 4日(土) 参加者数 14名
②宮崎地区サイエンスコンクール展 (みやざき科学技術人材育成推進委員会)	実施日 令和4年8月27日(土)～9月4日(日) 入場者数 延べ 1,101人
③県学校発明くふう展 (宮崎県発明協会)	実施日 令和4年10月14日(金)～16日(日) 入場者数 延べ 737人
④宮崎市中学校毛筆展 (宮崎市中学校書写部会)	実施日 令和4年10月25日(火)～11月6日(日) 入場者数 延べ 2,026人
⑤コズミックカレッジ (宮崎ハマユウ会)	実施日 令和4年11月12日(土) 入場者数 43人
⑥命の科学フェア	実施日 令和4年7月10日(日) ※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。

宮崎市歴史資料館

【宮崎市生目の杜遊古館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和4年度においても宮崎市生目の杜遊古館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	300日
入館者数	21,865人
1日平均入館者数	73人

※9/18・19は台風により臨時休館

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	6,218人（28.4%）
大人	15,647人（71.6%）
合計	21,865人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	16,568人（75.8%）
団体	5,297人（24.2%）
合計	21,865人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	396人（8.4%）
小学校	1,367人（29.0%）
中学校	95人（2.0%）
一般	2,848人（60.6%）
合計	4,706人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人（0%）
小学校	352人（81.5%）
中学校	37人（8.6%）
一般	43人（9.9%）
合計	432人

④ 県外団体利用内訳

一般	159人（100%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
合計	159人

⑤ 県外地域別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
近畿	1	27	17.0
中国	0	0	0
中部	1	7	4.4
関東	7	125	78.6
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	9	159	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

展示室1では旧石器時代から近現代に至る宮崎市域の歴史について、展示室2では国指定重要文化財である「下北方5号地下式横穴墓出土品」について、展示室4では隣接する国指定史跡生目古墳群や宮崎市内の遺跡から出土した埋蔵文化財について展示・紹介している。

3 企画展示事業

展示室3では、下記のとおり企画展示を行っている。

(1) 企画展「ブック・ブック!-いろんな書物大集合-

江戸中期から戦後までの書籍(和綴本や雑誌、教科書、漫画等)の展示を通して、本や出版の歴史、書籍から読み取れる世相を紹介した。

開催期日 令和4年10月22日(土)～12月4日(日)

入場者数 延べ 3,833人

(2) 企画展「国富・綾の文化財」

国富町と綾町の文化財に焦点を当て、両町の国・県・町指定文化財のパネルを展示し、郷土の歴史や民俗に親しむ機会を提供した。

開催期日 令和5年1月21日(土)～3月5日(日)

入場者数 延べ 2,219人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 講座

①歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、外部専門家の方々を講師として招いたほか、当館館長の講座も実施した。

実施回数 10回

内容(演題) 「日本書紀にみる神武天皇の物語Ⅲ～大和入り編～」、「動物園の歴史と役割」、「指定文化財・日本遺産～基本からこぼれ話まで～」、「住まい方の変遷と住まいの様式～宮崎の地に快適に暮らす～」、「江戸の生活Ⅱ～SDGsの先駆者たち～」、「宮崎の江戸時代Ⅱ～その後～」 「鎌倉殿と伊東氏-工藤祐経をめぐって-」、「歴史を経済とデータから推理する～明治・大正・昭和の資料・データから経済を一口に事件・事象を改めて考察する～」、「宮崎の戦争 その2」、「江戸の文化Ⅱ～美術工芸編(絵師と浮世絵)～」

参加者数 延べ 424人

②埋蔵文化財関連講座(みんなの考古学)

宮崎市内の遺跡や遺物に関する講座として、宮崎市教育委員会文化財課の専門職員による講話を行った。

実施回数 5回

内容(演題) 佐土原城跡～調査速報も含めて～
宮崎小学校遺跡と県庁楠並木通り周辺の遺跡たち
山崎上ノ原遺跡&山崎下ノ原遺跡
佐土原天神地区の遺跡たち-松木田遺跡と上田島古城遺跡-
橋山遺跡群(第1、第2、第3)-出る出る集石遺構-

参加者数 延べ 200人

③歴史夜話 in 遊古館

徳川宗家19代当主の徳川家広氏を講師に迎えて、令和5年2月26日(日)に開催された公益財団法人宮崎文化振興協会設立35周年記念事業「文化講演会」に関連し、徳川将軍家・徳川家臣団に関する講座を夜間に開催した。

実施回数 2回: 令和4年12月21日(水)、令和5年1月25日(水)

内容(演題) 「徳川将軍家の系譜」、「徳川家臣団の横顔」

参加者数 延べ 43人

④古文書講座(初級編、中級編)

宮崎県立図書館の史料筆耕解読員を講師に迎え、令和3年度に引き続き内容を初級編と中級編に分け、古文書の解読演習を行った。

(初級編) 実施回数 3回 テキスト 『村庄屋可心得條々』ほか

参加者数 延べ 62人

(中級編) 実施回数 5回 テキスト 『稲津軍記』ほか

参加者数 延べ 120人

(2) 歴史文化体験（わくわく学芸員講座）

学芸員による歴史や文化にまつわるモノ作りを実施した。

実施回数 4回（7月、10月、11月、2月）

実施内容 「風鈴づくり」、「御朱印帳づくり」、「折り紙の提げものづくり」、
「扇づくり」

参加者数 延べ 26人

(3) 体験学習・個人体験プログラム

「古代織りでコースターづくり」等の古代のモノ作り体験や昔の人々の暮らしと関連した「ミニ門松づくり」等の製作体験を行うもので、子どもと保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

体験学習 実施回数 18回

実施内容 竹とんぼ・石臼体験・革細工・草木染め・竹馬づくり・鏡づくり
藍染体験・古代米を使った団子づくり

古墳ウォークラリーとカレー炊飯・けん玉づくり・リースづくり

古代米を使った餅つき・門松づくり など

参加者数 延べ 389人

個人体験 実施回数 85回（4～3月） 勾玉・はにわ・土笛づくり・草木染め

参加者数 延べ 828人

(4) 学校教育等との連携

学校教育や幼児教育への支援として、勾玉づくりや土笛づくり、史跡ウォークラリーといった体験活動や展示室・生目古墳群見学などのプログラムを実施した。利用の目的としては、社会科見学や遠足のほか、新型コロナウイルス感染症の拡大に関連し、宮崎県内小学校の修学旅行視察先として多くの利用があった。

小・中学校・高等学校 来館校数 25校

来館者数 延べ 2,231人

幼稚園・保育所等 来館園数 13園

来館者数 延べ 396人

この他、生涯学習支援として、学校や地域住民向けの出前講座等を5回行った。

5 イベント事業

(1) こどもの日特別企画

ゴールデンウィーク期間中の5月5日（木・祝）に子ども対象とした館内・史跡クイズラリー（遊古館内・史跡公園）、紙かぶとづくり（食堂）、昔の遊び体験（イベント広場と神話・民話コーナー）、勾玉づくりを開催した。

参加者数 大人 309人

子ども 166人

計 475人

(2) 遊古館ディキャンプ

日中から日没後にかけて、宿泊を伴わないディキャンプを2回実施した。1回目は革細工づくりや炊飯体験、大淀川学習館職員の指導のもとでの生き物採集を行った。2回目は万華鏡づくりや炊飯体験、宮崎科学技術館職員による星空観望会を行った。

【1回目】令和4年7月23日（土）14:00～21:00 19人

【2回目】令和5年1月 7日（土）13:30～20:00 22人

(3) レッツ！タイムワープ in 遊古館

農耕等の生産活動や歴史・民俗学など、昔の人々の生き方を辿りながら、「飢餓をゼロに」や「海の豊かさを守ろう」等のSDGsの理念に沿って、体験し学ぶ講座を実施した。

実施回数 5回

参加者数 延べ 51人

(4) みやざき生目古墳まつり応援事業（生目古墳群 de ピクニック 2022）

「みやざき生目古墳まつり～生目古墳群 de ピクニック～」(みやざき生目古墳まつり実行委員会主催)に合わせ、竹とんぼづくりやクイズラリー、竹馬等の昔の遊び体験を、史跡公園会場ブースや遊古館展示室等で実施した。

開催期日 令和4年12月3日（土）

参加者数 504人

(5) 1日子ども館長（事務局経営戦略課事業）

文化財や歴史に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に1日子ども館長を実施し、体験学習の受付やリースづくりを行った。

開催日時 令和4年11月27日（日）

参加者数 5人

(6) 歴史3館クイズ・スタンプラリー

宮崎市歴史資料館3館（生目の杜遊古館・佐土原歴史資料館・天ヶ城歴史民俗資料館）を広く周知し、相互利用の促進を図るため、3館を巡り、展示室に隠されたクイズを解くスタンプラリーを開催した。達成者にはクイズラリーの答えとリンクするハンカチを差し上げた。

開催期間 令和4年12月3日（土）～令和5年1月9日（月・祝）

参加者数 149人（うち125人が達成）

6 資料収集、調査・研究

市民の資料に関する照会・相談を受けたほか、「令和4年度宮崎市歴史資料館 研究紀要」を刊行予定。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和4年度においても宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	138日
入館者数	7,970人
1日平均入館者数	58人

※9/18・19は台風により臨時休館

(2) 利用内訳

①入館者数（小人・大人）内訳

小人	1,772人(22.2%)
大人	6,198人(77.8%)
合計	7,970人

②入館者数（個人・団体）内訳

個人	6,842人(85.8%)
団体	1,128人(14.2%)
合計	7,970人

③県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	0人(0%)
小学校	567人(56.5%)
中学校	0人(0%)
一般	436人(43.5%)
合計	1,003人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人(0%)
小学校	0人(0%)
中学校	0人(0%)
一般	18人(100%)
合計	18人

④県外団体利用内訳

一般	107人(100%)
小学校	0人(0%)
中学校	0人(0%)
合計	107人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	1	17	15.9
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	1	29	27.1
関東	2	33	30.8
東北	1	28	26.2
北海道	0	0	0
合計	5	107	100

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館跡の発掘調査をもとに想像復元した「鶴松館」では、佐土原藩にまつわる掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元に伝承される佐土原人形を展示した。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近代にかけての佐土原の歴史について、各時代の資料を展示し解説した。

(2) 商家資料館 旧阪本家

江戸期から味噌や醤油の醸造販売を手がけていた商家「旧阪本家」（明治 38（1905）年築重層入母屋造。市指定有形文化財・市景観重要建造物）を資料館として、1 階に机や銭箱などを配した帳場を再現し、2 階に当時の商いに関する資料や城下の町並みの古写真を展示した。

3 企画展示事業

(1) 企画展「藩主の履歴書！」

佐土原藩歴代藩主の経歴とその代に起きた事件や出来事について紹介したパネルを掲示し、佐土原の史跡や歴史について幅広い世代の方に知っていただく機会を設けた。

開催期日 令和 4 年 5 月 1 5 日（日）～ 6 月 1 4 日（火）

入場者数 延べ 1, 5 4 7 人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作及び伝統文化の体験、佐土原城や城下の史跡を巡る体験学習を、子どもと保護者及び一般の参加者を対象に実施した。

実施回数 9 回

内 容 「お城で茶道体験」、「お城で生け花体験」、「佐土原の祭り」、
「佐土原の玩具」、「お城で音楽鑑賞体験」、「町中の史跡を巡る」、
「佐土原人形の絵付け体験」、「神社・仏閣巡り」、「佐土原城を散策する」

参加者数 延べ 1 1 8 人

(2) 学校教育等との連携

学校教育において宮崎市生涯学習課事業の「施設学習支援事業」や総合的な学習等による学校の団体利用のほか、児童や教職員を対象とした出前事業を実施した。

① 団体利用

小学校	来館校数	5校（7件）
	来館者数	延べ 517人

② 出前授業・講座

参加校数	8件（うち学校は2校で5件。その他は地域づくり協議会）
参加者数	延べ 389人

5 イベント事業

(1) 神代独楽回し大会

佐土原に江戸時代から伝わる郷土玩具で、下級武士の内職として作られ続け、端午の節句の贈り物にもなった神代独楽を使ったこま回し大会を実施した。

開催期日	令和4年6月26日（日）
参加者数	29人

(2) 共催事業

佐土原地域づくり協議会と共催にて、鶴松館裏手にある花しょうぶ園をメイン会場として、町おこしを目的とした花しょうぶまつりを実施した。佐土原歴史資料館では、大正琴や演歌などのステージが行われた。

開催期日	令和4年6月5日（日）
参加者数	343人

(3) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

乳幼児とその保護者が気軽に参加できるコンサートを地元アーティスト等による生演奏により開催した。各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とした。

開催期日	令和4年10月14日（金）
参加者数	45人

6 資料収集、調査・研究

市民より軸物や人形等の8点の資料寄贈を受けた。また、資料収集に関連して資料調査（聞き取り、写真撮影等）を実施し、記録作業を行った。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、令和4年度においても宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行い、展示物の適切な管理、施設維持のための保守・点検を実施するなど、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	138日
入館者数	14,472人
1日平均入館者数	105人

※9/18・19は台風により臨時休館

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	5,303人（36.6%）
大人	9,169人（63.4%）
合計	14,472人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	12,420人（85.8%）
団体	2,052人（14.2%）
合計	14,472人

③ 県内団体利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育所等	0人（0%）
小学校	1,984人（97.5%）
中学校	0人（0%）
一般	51人（2.5%）
合計	2,035人

・広域圏外

幼稚園・保育所等	0人（0%）
小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般	0人（0%）
合計	0人

④ 県外団体利用内訳

小学校	0人（0%）
中学校	0人（0%）
一般	17人（100%）
合計	17人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州	0	0	0
四国	0	0	0
中国	0	0	0
関西	0	0	0
中部	0	0	0
関東	1	17	100.0
東北	0	0	0
北海道	0	0	0
合計	1	17	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0
佐賀	0	0	0
長崎	0	0	0
熊本	0	0	0
大分	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄	0	0	0
合計	0	0	0

2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の歴史・文化・民俗を映像や民俗資料で紹介している。また薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを甲冑や古文書といった歴史資料と、当時の町並みをイメージして作られた模型とともに解説している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

3 企画展示事業

企画展『何が起きた!? 地域のヒストリー展』

宮崎市指定有形文化財「高岡名勝志」や高岡郷士の「知行高名寄帳」といった高岡に関する古文書、高岡郷士家に伝わる兜や鎖帷子といった歴史資料のほか、弁当入やはえ縄箱、トランシットやワープロといった民具資料などを展示した。また戦前から戦後にかけての高岡町内を写した白黒写真を掲示することによって、高岡の歴史・民俗に親しむきっかけとし、また興味関心を高める場を提供した。

開催期日 令和5年3月15日(水)～4月16日(日)

入場者数 延べ 4,040人(年度内入館者数)

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 体験学習

水鉄砲づくりやミニ門松づくりなどの昔ながらの製作を中心とした体験学習を行うもので、子どもと保護者及び一般を対象に実施した。

実施回数 8回

内 容 お菓子づくり・弓矢づくり・水鉄砲づくり・夏休み図画工作

高岡麓のまちなみを歩こう・凧づくり・ミニ門松づくり・かまど炊飯体験

参加者数 延べ 111人

(2) 学校教育等との連携

学校教育において宮崎市生涯学習課事業の「施設学習支援事業」や総合的な学習等による学校の団体利用があった。

小学校 来館校数 4校

来館者数 延べ 525人

(3) 授業支援事業「くらしを支えた昔の道具」

当館所蔵の民俗資料（昔の道具）を活用し、小学校の社会科における「市のようすとくらしのうつりかわり」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対 象 宮崎市、国富町、綾町内の小学校

実施校数 19校

参加者数 延べ 1,459人

(4) 高岡歴史かるたで遊ぼう

宮崎市高岡町の寺社仏閣・文化財・史跡・先人といった高岡にまつわる事柄を札とした高岡歴史かるたを用い、高岡の歴史や文化を学びながらかるた遊びを行った。

期 日 第1回 令和4年7月3日（日）、第2回 9月4日（日）、

第3回 10月9日（日）、第4回 11月6日（日）

講 師 高岡歴史かるた会 山口孝治氏

参加人数 延べ 82人

5 資料収集、調査・研究

資料収集としては、書画資料2点の寄託があった。また、資料収集に関連して資料調査（聞き取り、写真撮影等）を実施し、記録作業を行った。

大淀川学習館

1 管理運営事業

令和2年度から3か年の指定管理を受け、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	300日
入館者数	97,055人
1日平均入館者数	324人

※台風による臨時休館 2日間 (9/18~19)

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	43,403人 (44.7%)
大人	53,652人 (55.3%)
合計	97,055人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	88,404人 (91.1%)
団体	8,651人 (8.9%)
合計	97,055人

③ 県内団体利用内訳

・ 広域圏内 学校団体

幼稚園・保育所等	2,665人 (44.5%)
小学校	3,144人 (52.5%)
中学校	33人 (0.6%)
高等学校	0人 (0.0%)
大学・短期大学	48人 (0.8%)
特別支援学校	94人 (1.6%)
合計	5,984人

・ 広域圏外 学校団体

幼稚園・保育所等	106人 (9.9%)
小学校	949人 (89.0%)
中学校	11人 (1.1%)
高等学校	0人 (0.0%)
大学・短期大学	0人 (0.0%)
特別支援学校	0人 (0.0%)
合計	1,066人

・ 一般団体

医療・福祉	1,499人 (93.6%)
教育	11人 (0.7%)
その他	91人 (5.7%)
合計	1,601人

④ 県外団体利用内訳

小 人	0 人
大 人	0 人
合 計	0 人

2 展示事業

(1) 常設展示

大淀川流域の自然や文化、歴史などについて、顕微鏡を用いて見ること、標本やはく製等へ直に触れること、身近な動植物への新たな気づきを楽しむことを通して、学びを深めるための展示を行っている。

令和4年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策として、パソコンや顕微鏡などの直接触れる展示物を一時撤去し、見て学べる展示物を中心に工夫した。パソコンや顕微鏡の利用については、3月下旬に本格的に再開した。

(2) 生体展示

① 自然楽習園^{がくしゅう}

自然楽習園^{がくしゅう}では、子どもたちの自然観察力を向上させるため、季節に応じてチョウの食草や蜜源植物を設置し、令和4年度は、年間4,344頭を放蝶することで、常時30～100頭を自然環境に近い状態で観察できるように維持した。また、学習効果を高めるための解説板設置や、蜜源植物の導入及び設置レイアウトの工夫を行った。

② 生体展示ホール

大淀川の上流から日向灘までのつながりを一体的に学ぶ場として、小型水槽と大型水槽では、大淀川の上流域から河口域にかけて生息する魚を、円型水槽においては、日向灘に生息する海洋生物を展示した。日本三大怪魚のひとつであるアカメや、大淀川固有種のオオヨドシマドジョウ等の希少な生体からカニやカメ等の身近な生き物まで幅広く揃え、子どもの興味や視線の高さ、季節等に応じて、随時、配置換えを行った。

③ ホタル展示室

水質保全意識の向上を図るため、清流の象徴であるゲンジボタルを展示した。成虫だけではなく、卵や幼虫、蛹の展示も行い、解説や飼育体験を通して、子どもたちの学習機会を確保した。宮崎市環境政策課や宮崎市内の各地区ホタル保存会と連携・協力を図りながら、ホタルビオトープ水槽等を活用して館内羽化率向上に取り組んだ。さらに、令和4年度は成虫のつがいが卵を産む場所を増やすとともに、水槽に牡蠣殻を入れ、ホタルの幼虫のエサとなるカワニナの稚貝を増やしたり、カワニナの貝殻とともにホタルの幼虫を誤って廃棄しないように気を配ったりすることで、幼虫の飼育頭数を増やすことができた。

(3) 企画展示

① 特別企画展 「水の生き物をよく知ろう！ザリガニ展」

内 容 生命尊重や環境保全意識の向上、在来種と外来種に関する正しい知識の普及を図るため、生体展示を中心に行った。体色変化を観察するコーナーや外来生物としてのアメリカザリガニの特徴等を掲示した。また、青や白など、特殊な色のアメリカザリガニや大型の生体を合わせた45頭とともにニホンザリガニ4頭を展示し、解説パネルの設置やミニ講座等を実施した。

開催期日 令和4年4月26日（火）～6月5日（日）

入場者数 延べ 14,968人

- ② 企画展 「カラー魚拓への誘い」
内 容 サカナの特徴に興味をもち、生物を題材とした文化活動への関心を高めるため、サカナの色や形、模様などを鮮やかに表現することができるカラー魚拓61点を、地元愛好家の協力を得て展示した。
開催期日 令和4年6月14日（火）～7月10日（日）
入場者数 延べ 7,622人
- ③ 特別企画展 「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」
内 容 子どもたちが、生命の尊さや生き物と触れ合う楽しさを体験的に理解するため、例年好評な大淀川流域に生息するカブトムシやクワガタムシに関する企画展を実施した。令和4年度は、感染症対策により、実際に生体に触れていただく体験の実施が難しかったため、見て理解できる展示を工夫した。また、生態系維持の重要性や在来種と外来種に関する正しい知識の普及・啓発を図るため、外国産の生体も同一会場内に展示し、パネルやミニ講座等による解説を行った。
開催期日 令和4年7月16日（土）～8月28日（日）
入場者数 延べ 29,034人
- ④ 企画展 「よく見てみよう！ちょっぴりこわい生き物&うんち展」
内 容 生命の存在価値や命の尊さについて考える契機とするため、ヘビやゴキブリ、クモなど、一般的に嫌悪されたり、怖がられたりする生体と生物の排泄物や排泄物についての解説パネルの展示を行った。
開催期日 令和4年9月17日（土）～10月30日（日）
入場者数 延べ 9,521人 ※9月18日（日）～19日（月・祝）は、台風14号接近に伴う臨時休館のため中止。
- ⑤ 新規企画展 「身近な生き物と環境展」
内 容 生態系への理解を促進するため、飼育できる身近な生き物（金魚・メダカ・カメ）の紹介を行った。また、SDGsや自然環境保護への啓発を目的として、コオロギパウダー入りクッキーやタガメエクス入りサイダー、乾燥スズメバチなどの昆虫食や廃材水槽の展示、解説を行った。
開催期日 令和4年11月5日（土）～12月11日（日）
入場者数 延べ 7,011人
- ⑥ 企画展 「変身しよう！みんなの生き物アート展」
内 容 乳幼児期から親子で自然に親しむきっかけを作ることや、SNSの普及によるフォトスポット需要が高まっていることを受け、自然を感じつつ、写真撮影を通じた文化活動にも触れることができるよう、チョウやトンボになりきる写真スポットやうさぎ年にちなんだ写真スポット、不思議な水槽など合わせて5か所の写真スポットを設定した。
開催期日 令和5年1月4日（水）～2月12日（日）
入場者数 延べ 6,563人

⑦ 代替企画展 「ひな人形と水槽コラボ展示」

内 容 日本のお昔からの風習や年中行事を身近に感じるとともに、季節の移ろいや生き物への興味・関心を高めてもらうことを目的として実施した。ひな祭りの時期に合わせて、エントランスホールにひな人形とともに、金魚やメダカなど身近な生き物を飼育する水槽に桃や桜、梅の花を入れたものや、コケを生やした水槽にミニひな山を再現したものなど、季節の彩りを添えて展示した。

開催期日 令和5年2月4日（土）～3月3日（金）

入場者数 延べ 4, 295人

⑧ 新規企画展 「春の芽吹きを感じよう！春の彩り展」

内 容 春休み期間中の子どもたちが、春に芽吹く植物等を観察する機会を設けるために、菜の花やハマダイコンなどの野草やアーモンド、藤などの園芸種の展示を行った。

開催期日 令和5年3月18日（土）～4月9日（日）

入場者数 延べ 3, 274人 ※3月31日（金）までの集計

（4）作品募集と展示

① 作品展 第28回 大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展

内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集し、入賞作品21点を展示した。

応募数 647点

開催期日 令和4年10月1日（土）～10月30日（日）

入場者数 延べ 7, 025人

（5）川のシアター

内 容 大淀川の自然環境への興味・関心を高めるため、8本の番組（大淀川の自然を訪ねて、大淀川の水と生き物たち、大淀川の生い立ちと生き物、母なる川～大淀川～、大淀川水辺のおさんぽ、大淀川の虫たち、ダイビング in 南郷、日向灘の海）を立体ハイビジョンにて上映した。

上映回数 444回

観覧人数 延べ 5, 157人

※ 団体での利用が増えたことにより、上映回数は徐々に回復してきている。

※ 新型コロナウイルス感染症対策のため、4月1日～6月5日、7月12日～10月4日は上映を中止し、上映時も定員の5割の入場制限を行った。

令和3年度（上映回数：381回 観覧人数：延べ4, 961人）

令和2年度（上映回数：92回 観覧人数：延べ1, 596人）

（6）里山の楽校

古来より、人が里山を通じて自然の恩恵を受けながら生活を送ってきたことについて理解し、身近な自然環境を大切にする心を育むために、多目的施設「杉の家」を中心として、里山を再現したフィールドを維持し、「ミツバチはかせになろう！」や「生き物の集まる植物を植えよう！」、

「目指せ！ムシはかせ」等の教室事業の会場として活用を図った。また、第2食草園では、自然楽習園を維持するために必要な植物を育てるとともに、生涯学習支援事業である「芋ほり体験」も実施した。

3 学校対応事業

小学生を対象に、小学校3年生で学習するチョウの生態について、観察や講話を行うプログラムや館で飼育する生物の見学や解説を行うプログラムを実施した。また、小学校で理科を担当する先生を対象に、授業で取り上げられるチョウやメダカの飼育方法や生態についての講義・演習を実施した。小学生を対象とした見学プログラムは、主に遠足や校外学習においての利用であった。

(1) 授業支援

対 象	小学校 19校
実施回数	19回
参加者数	延べ 1781人
内 容	チョウやホタルの生態について、間近で見て触れられるという本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行った。

(2) 指導者支援

対 象	小・中学校教諭等
実施回数	3回
参加者数	延べ 15人
内 容	チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容について、館独自のテキストを用いた講義や自然楽習園での演習を行った。

4 団体対応事業

(1) 子ども会・PTA・学童保育等への支援

対 象	子ども会・PTA・学童保育等
実施回数	0回（申し込みなし）
参加者数	延べ 0人
内 容	展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な工作活動を準備したが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、申込はなかった。

(2) 出前授業等

対 象	児童館や地域づくり協議会等
実施回数	19回
参加者数	延べ 933人
内 容	身の回りにいる生きものを観察したり、その種類を調べたりする野外活動や生き物の講座を行った。

5 教室事業

自然に対しての興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対 象 小学生以上
実施回数 6回（5月に4回、7月に1回、10月に1回）
参加者数 延べ 73人
内 容 「ホテル環境教室」を1回、「川の生き物で水質環境調査」を計4回、「自由研究にぴったり！浄水場見学会」を1回、「水の生き物のすむ環境を作ってみよう」を1回計画した。「自由研究にぴったり！浄水場見学会」は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、実施することができなかった。

(2) 飼育・観察教室

対 象 小学生以上
実施回数 11回（全13回の内、2回は中止）
参加者数 延べ 156人
内 容 「目指せ！ムシはかせ」を2回、「初めてのカブトムシ・クワガタムシ採集・飼育教室」を3回行った。また、「目指せ！ムシはかせ（夜間）」は5回、「メダカの飼育教室」は3回計画したが、台風接近によりそれぞれ1回が中止となり、計6回実施した。

(3) 活動教室

対 象 小学生以上
実施回数 6回
参加者数 延べ 77人
内 容 「生き物の集まる植物を植えよう！」を1回、「水を浄化してみよう！」を2回、「ハーブティーを楽しもう！」、「シイタケの種駒打ちをしよう！」、「食べられる野草を探してみよう！」を各1回行った。

(4) ものづくり教室

対 象 小学生以上
実施回数 5回
参加者数 延べ 84人
内 容 「昆虫標本を作ろう！」、「カラー魚拓を制作しよう！」、「植物標本を作ろう！」、「野鳥の巣箱を作ろう！」、「ミツロウでオリジナルキャンドルを作ろう！」を行った。

(5) 園児教室

対 象 幼稚園や保育所等の園児
実施回数 20回
参加者数 延べ 559人
内 容 動植物の話聞き、実際に生きものを見たり、工作活動をしたりした。

6 イベント事業

大淀川学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的として事業を行った。

(1) 季節のイベント

対 象	全来館者（内容により年齢制限を設けているものもある）
実施回数	4回（5月に1回、7月に2回、12月に1回）
参加者数	延べ 167人
内 容	「カブトムシの幼虫を育てよう!」、「カブトムシの木登り大会」、「クワガタムシのすもう大会」、「クリスマスコンサート in 大淀川学習館」を実施した。

(2) わくわく工作

対 象	全来館者
実施回数	16回
参加者数	延べ 293人
内 容	大淀川流域の自然や文化をテーマにして、家族で楽しみながら創作を行うイベントを、毎月第2・4土曜日に2回ずつ実施した。 （工作内容の例：「ミニ鯉のぼりを作ろう!」、「かぶと飾りを作ろう!」、「切り紙で昆虫標本を作ろう!」、「七夕飾りを作ろう」、「貝がらで工作しよう!」、「風船のハロウィンおばけを作ろう!」等）

(3) 講演会

対 象	全来館者
実施回数	1回
参加者数	延べ 30人
内 容	新型コロナウイルス感染症の拡大により、講師の選定等が難しくなったため、「秋の魅力～新しい発見と感動【宮崎編】」と題して、協会職員3名が講師となり講演会を実施した。

7 その他の事業

(1) 学校教育及び幼児保育等との連携

幼稚園や保育所等の園外活動や小中学校の校外学習など、見学時の要望に応じて、自然環境や生物についての講話や体験活動等を提供した。また、中学校や高等学校の職場体験学習や大学の博物館実習等についても積極的に受け入れた。

来館学校

幼稚園・保育所等	106団体	延べ来館者	2,709人
小学校	53団体	延べ来館者	4,042人
中学校	2団体	延べ来館者	33人
小・中学校	2団体	延べ来館者	62人
高等学校	0団体	延べ来館者	0人
特別支援学校・大学・短大	3団体	延べ来館者	48人
合 計	166団体	延べ来館者	6,894人

(2) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

各施設の文化・教育機関としての価値を高め、利用促進の機会とするために、乳幼児とその保護者が気軽に参加できるコンサートを、地元アーティスト等による生演奏により、2階レクチャー室で実施した。

期 日 令和5年3月9日（木）

参加者数 53人

(3) 1日子ども館長（事務局経営戦略課事業）

河川及びその周辺の自然等に興味関心をもち、将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に職場体験を実施した。

開催日時 令和4年12月3日（土） 小学生5名

(4) 各種関係団体との連携（ ）内は団体等の名称

①アユの稚魚を放流しよう 実施日 中止

（宮崎県内水面振興センター）

②自由研究にぴったり！浄水場見学 実施日 中止

（宮崎市上下水道局：下北方浄水場）

③クリスマスコンサート 実施日 令和4年12月25日（日）

（宮崎市立宮崎北中学校） 入場者数 47人

④ふれあいもちつき大会 実施日 中止

（水源地団地自治会）

⑤カラー魚拓を制作しよう 実施日 令和4年7月3日（日）

（色彩魚拓画会） 入場者数 子ども8人、大人7人、計15人

⑥しいたけの種駒打ちをしよう 実施日 令和5年2月5日（日）

（宮崎中央森林組合） 入場者数 子ども5人、大人5人、計10人

(5) 情報提供と広報活動

I C T（情報通信技術）を積極的に活用し、S N S（ブログ、フェイスブック）を用いた情報提供や広報活動を行った。

また、宮崎市水道局の広報誌「せせらぎ」、宮崎市役所のY o u T u b eチャンネルと連動した「みやざき水辺の生き物図鑑」の企画・製作に協力した。

宮崎市民プラザ

1 管理運営事業

平成31年度から5か年の指定管理を受け、令和4年度においても「公平・公正な管理運営」「満足度の高い管理運営」「安心・安全で効率的な管理運営」の3つの基本方針に基づいて施設の管理運営に努めた。8月からはオルブライトホール特定天井改修工事及び館内空調設備更新工事のため、7ヶ月にわたり全施設の貸館を中止することとなり、令和5年3月に再開した。

(1) 利用状況

開館日数	132日
入館者数	72,172人
1日平均入館者数	547人

(2) 利用内訳

・1階 オルブライトホール	15,116人 (利用率 78.2%)
・4階 ギャラリー	9,611人 (利用率 78.6%)
・4階 練習室①	3,258人 (利用率 72.0%)
・4階 練習室②	780人 (利用率 75.8%)
・4階 大会議室	5,847人 (利用率 89.4%)
・4階 中会議室	2,869人 (利用率 90.2%)
・4階 小会議室①	1,730人 (利用率 92.4%)
・4階 小会議室②	1,282人 (利用率 83.3%)
・4階 和室	1,060人 (利用率 84.8%)
・4階 学習室	1,598人 (利用率 70.5%)
・1階 授乳室	21人
・1階 喫茶コーナー	1,554人
・3階 宮崎市民活動センター	19,460人
・3階 各団体室	4,659人
・ホール打合せ	14人
・ギャラリー打合せ	35人
・窓口受付	3,137人
・視察者等	141人

合計 72,172人

※オルブライトホール特定天井改修工事及び館内空調設備更新工事による貸館中止期間

・令和4年8月1日（月）～令和5年2月28日（火）

（貸館中止施設／オルブライトホール、ギャラリー、練習室、会議室、和室、学習室）

2 文化芸術企画事業

「市民文化の振興」「若い世代へのアプローチ」「文化芸術活動への支援」の3つの取組方針に基づいて、鑑賞型や創造・参加型、普及・育成型など様々な形で事業に取り組んだ。工事のためにオルブライトホールの使用ができなかった8月以降は、プラザに隣接する橘公園噴水広場や宮崎科学技術館で公演を開催するなど、計画どおりに取り組むことができた。

(1) Cantiamo! Vol. 1 ～歌を愛するすべての人へ～（共催事業）

有名なオペラからアリア・重唱を抜粋して、初めての方でも楽しめるようナビゲーションと日本語字幕付きで、オペラの魅力を紹介するコンサートを実施した。

- ・日 時 令和4年6月18日（土）18：00開場 19：00開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 大串るみ子（ソプラノ）、河野敦子（ソプラノ）、後藤智穂（ソプラノ）、後藤悠（ソプラノ）、友納真美（ソプラノ）、中原ちふみ（メゾ・ソプラノ）、有馬誠（テノール）、岩元徹（テノール）、柳田啓志（テノール）、末平浩康（バリトン）、松本英樹（バリトン）、西岡幹洋（ピアノ）
- ・入場料 全席自由／前売2,000円（当日2,500円）
- ・入場者数 425人

(2) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

乳幼児とその保護者に生の音楽を身近に感じてもらうため、馴染みのある童謡を中心に手遊びなども交えた歌とピアノによるコンサートを実施した。

- ・日 時 令和4年7月14日（木）10：00開場 10：30開演
- ・場 所 オルブライトホール
- ・出演者 友納真美（ソプラノ）、後藤悠（ソプラノ）、有馬誠（テノール）、西岡幹洋（ピアノ）
- ・入場料 無料
- ・入場者数 190人（子ども89人、保護者101人）

(3) 舞台さんで行く！夏休み！！バックステージ体験

普段は入ることのできないオルブライトホールの裏側や舞台職員の業務を見学・体験することで、舞台機構や文化施設を身近に感じてもらうため、小学生親子を対象にバックステージツアーを実施した。

- ・日 時 令和4年7月23日（土）①10：00～12：00
②14：00～16：00
- ・場 所 オルブライトホール
- ・参加者数 ①20人（子ども10人、保護者10人）
②30人（子ども14人、保護者16人）
- ・協 力 劇団SPC、あの頃のボクラ

(4) 第16回市民プラザコンサート～秋空の下で～

市民が気軽に楽しめる趣向を凝らしたコンサートを通して音楽文化の振興を図るため、地元宮崎で活動・活躍する様々なジャンルのアーティスト4組による屋外コンサートを実施した。

- ・日 時 令和4年10月2日(日) 13:30～16:30
- ・場 所 橘公園噴水広場
- ・出演者 Dai華(ポップス)、謡楽舎(民族音楽)、香月保乃ジャズカルテット(ジャズ)、Tokobigband(ビッグバンド)
- ・入 場 料 無料
- ・来場者数 523人

(5) 1日子ども館長(事務局経営戦略課事業)

文化芸術に対する興味関心を高めるとともに将来の職業選択のきっかけづくりを行うため、小学生を対象に「市民プラザコンサート」での職場体験を実施した。

- ・日 時 令和4年10月2日(日) 10:00～15:00
- ・場 所 橘公園噴水広場
- ・参加者数 5人(4年生3人、5年生1人、6年生1人)

(6) 子どものための文化芸術体験プログラム(アウトリーチ事業)

子どもたちの文化芸術に対する関心を高めるとともに心豊かな感性を育むため、実演家やアーティストが小学校へ出向き、①伝統芸能プログラム「狂言っておもしろい!!」と②音楽プログラム「楽器の役割を知ろう(バンド編)」を実施した。

- ・日 時 ①令和4年11月 1日(火) 13:20～15:05
②令和4年11月17日(木) 10:25～11:20
- ・実施校 ①宮崎市立加納小学校(対象:6年生児童136人)
②宮崎市立恒久小学校(対象:5・6年生児童169人)
- ・実演等 ①山下守之(狂言師)、茂山千五郎(狂言師)
②豊島大貴(ドラム)、豊島有里(キーボード)、小玉竜三(ベース)、谷口善彦(ギター)、野村あかり(ヴォーカル)

(7) 桂歌春の落語教室(アウトリーチ事業)

本県出身で落語家の桂歌春さんと宮崎の小学生が交流する機会を創出するとともに、古典芸能の落語を身近に感じてもらうため、桂歌春さんが小学校へ出向くアウトリーチを実施した。

- ・日 時 令和4年11月10日(木) ① 9:50～10:50
② 14:00～15:30
- ・実施校 ①宮崎市立江平小学校(対象:5年生児童143人)
②宮崎市立佐土原小学校(対象:全校児童250人)
- ・講 師 桂歌春(落語家)

(8) プラネタリウムで市民プラザ寄席「昇太・歌春二人会」

市民が気軽に楽しめる落語を通して、古典芸能への興味関心を高めるため、本県出身で落語家の桂歌春さんがプロデュースする落語会を宮崎科学技術館プラネタリウムホールで実施した。

- ・日 時 令和4年11月25日(金) 18:00開場 19:00開演
- ・場 所 宮崎科学技術館プラネタリウムホール
- ・出演者 春風亭昇太(落語)、桂 歌春(落語)、春風亭柳好(落語)、桂小すみ(音曲)
- ・入場料 自由席一般/前売3,000円(当日3,600円)
自由席学生/前売2,000円(当日2,400円)
- ・入場者数 221人

※新型コロナウイルス感染拡大により中止

- ・演劇公演「肉体改造クラブ～女子高生版～」(令和4年7月28日(木))

オーディションで選ばれた学生や社会人18人が、プロ演出家のもと、練習を重ねたが、新型コロナウイルス感染拡大により、当日は無観客での公演となった。

なお、リハーサルや本番映像をDVDに記録し配付することで、若い世代に貴重な体験と思い出を提供した。

(練習内容)

- ・ワークショップ 2回
- ・稽古 5回
- ・演出家による集中稽古 10回

3 企画推進委員会

地域の文化芸術団体や文化NPO、マスコミや大学講師など10人の方々に委員を委嘱し、様々なジャンルの団体との意見交換やヒアリング等により、市民プラザ主催事業の年間計画策定の参考となるご意見や助言等をいただける有意義な機会となった。

- ・日 時 令和5年3月9日(木) 10:30～12:00
- ・場 所 市民プラザ4階中会議室
- ・内 容 (1) 役員選出
(2) 令和4年度市民プラザ文化芸術企画事業の実施状況について
(3) 令和5年度市民プラザ文化芸術企画事業計画(案)について
(4) 文化芸術についての意見交換